

# 5部

オンデマンド・  
スクーリングのご案内



在宅で受講可能な「オンデマンド・スクーリング」を下記の科目について、実施いたします。※同一期に複数科目の申込みができます。

**[重要]**

オンデマンド・スクーリングでは、受講申込みからスクーリング試験提出まで、すべてパソコン上で操作していただきます。

また、オンデマンド・スクーリングのスクーリング試験は、一部の科目を除き、ワードファイルに解答を作成していただき、そのワードファイルをメールに添付して提出していただきます。

本学において、メールの送信、ワードの使用方法などパソコンの一般的な操作方法に関するご質問は受け付けておりませんのでご了承ください。

**●今回申込みを募る科目＝オンデマンド・スクーリング 11期**

期	(注1)			科目名	申込締切	受講開始	受講料 納入締切	スクーリング 試験締切 (正午)	\$単位	受講料
	～ 20	21 ～ 23	24 ～							
11	共通基礎	ボランティア論		10/4	10/15	10/25	11/6		1	5,000円
	◆★■	公的扶助論							1	5,000円
	心理系	人間関係論							1	7,000円
	心理系	学習心理学							11/13	1

(注1) ◆＝平成14～20年度入学者      ★＝平成21～23年度入学者

■＝平成24年度以降入学者向け科目

※ 受講期間中はこまめにメールをチェックしてください（必要事項はすべてメールでご連絡します）。

※ 申込締切日以降に手続きを行います。受講許可者に対し、受講開始日までに講義資料および受講料納入依頼書をそれぞれ別便でお送りいたします。

また、オンデマンド11より、「試験要領」は郵送いたしません。TFU

オンデマンド上で、受講開始日以降にダウンロードできるようにいたしますので、必ずご確認の上、受講してください。

※ オンデマンド・スクーリング申込・受講・単位修得方法やTFUオンデマンド使用方法の詳細は『学習の手引き』10章、概要は2013～2015版 p. 11、2009-2011★版および2002-2008◆版 p. 9に記載がございます。必ずご理解いただいたうえで受講申込みを行ってください。

● 「2つの講義（試験）は同時に視聴（受験）できません」と表示される場合『試験・スクーリング 情報ブック2015』 p. 61～62に対処方法が掲載されています。

## スクーリング・アンケートより(3)

アンケートよりスクーリング講義の感想を抜粋いたしました。

### ●精神保健福祉援助技術各論

- ・グループを組んでインテーク面接を交代でやったとき、私はとても早口で相手が話し終わると、すぐに次の質問をしてしまう傾向にあることに気がつきました。グループの中のゆっくりと話すひとを見ていて、「ああ、こういう人ならクライアントもお話したいと思うだろうな」と感じ、自分の話し方や「待つ」ということが苦手なところを改善していかないといけない、本当にPSWになれるだろうか?と不安がよぎりました。でも、大和田先生の「私も待つことが苦手で、たくさん訓練しました。」との言葉に救われました。これからも頑張っって勉強していきたいと思います。
- ・「ソーシャルワークの価値」についてのお話の中で、クライアントの希望に寄り添いながら、「正のフィードバック」をしていく、できることをきちんと評価して、改善点をあげていく。「次は〇〇できるといいですね」とつなげるような声かけをしていくとの内容で大和田先生の声かけの優しさがとても印象的でした。「正のフィードバック」の大切さを日ごろの生活のなかでも生かしていければと思います。

### ●精神保健福祉援助技術総論 I

- ・「クライアントは自己肯定感のない人が相談に来るので、相談を受ける立場の人は自分に自信が持てるようになってほしい」、だから「1日1つでも自分に肯定的に語りかけられるように」という先生のお言葉、励みになりました。
- ・ソーシャルワーカーは諦めないで、辛抱強く、クライアントに関わり、待つこと。なかなかストレートに変わるひとはいない、らせん状に同じようなことを繰り返し、同じような景色を見ながら位置を変え、「変化している」という先生のお話に、子育てにも通じる理論の深さを感じました。

### ●精神保健福祉援助演習 C - 1 + 実習指導 B - 1

- ・自分だけで抱え込まないこと、共依存にならないことの大切さを痛感しました。息長く安定した支援を続けられるPSWになれるよう、まずは自分自身の課題に取り組み、自分自身のケアができるように努めます。
- ・グループワークのロールプレイが印象的でした。ただ、目的を達成することを目指すのではなく、グループメンバー間の役割や力動性に視点をあてて、あせらず進行することが大切だと学びました。
- ・今まで身につけたものの積み重ねがある分、意見を述べるときも自信を持つことができた。それに対する違う意見も冷静に受け入れられた。実習・試験・卒業まで気持ちを維持できるよう繋げたい。